

建造されたのは☒提督☒でした!? ?

影山鏡也

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

艦これの世界にTFシリーズのショックウェーブ（マイ伝）が建造されたら。

と言った小説です。

※この作品を読む前の注意※

初期艦の叢雲が轟沈した悲しみで書き始めた作品なので『艦これ』の知識が少ないためキャラの口調や性格等を間違えている場合があります。

その時は優しくご指摘していただければ嬉しいです。

提督が鎮守府に建造されました!?

目

次

提督が鎮守府に建造されました!?!?

「艦隊に新しいメンバーが加わったようね」

いつも通り書類の処理をしていると初期艦の叢雲にそう言われた。
建造の指示なんて出した覚えがない。

「なんのことだ? 建造なんて頼んでないぞ」

「あんた覚えてないの。昨日の夜に大声で『資材MAXの建造運試し
じゃあ!!?』とか言つてたじやない」

そう言われ昨夜のことを思い出す。

「ああ、そういえば隼鷹や明石と飲みまくつてそちら辺記憶ない
なあ」

「何してんのよ。とりあえず行くわよ」

叢雲に呆れられつつ工廠へ向かう。

ちなみに道中「失敗したら酸素魚雷喰らわせるわよ」と言われた。
(まあまだ提督になつて日が浅く資材の管理下手くそだからなあ。ひ
とまず失敗してませんように)

ードカーン!!?—

そんな祈りも虚しく工廠の方から爆発が起こつた。

「酸素魚雷はやだあ」

「今そんなこと言つてる場合じゃないでしょ、被害状況の確認」

「は、はい」

工廠の方を見ると大きく立ち登る煙、そしてその中に船のような影
が見える。

被害確認のために現場へ向かう。

『ヴエ、ヴエ、ヴエ』

「な、何なのこれは」

「で、でけえ」

工廠に着いた時にはある程度晴れており黒と紫の装甲を持つ空母
ののような軍艦が”空に”浮かんでいた。

そう、空に浮かんでいるのだ。

空母、というより基本軍艦は海に浮かんでも空には浮かんがな。

「空母つて読んで字のどく空に浮けるんだなあ。宇宙戦艦か!!つて
そうじやねえ空母にしてもデカいわ」

「あんた、さつきからうるさいわよ」

『ヴエ、ヴエ、ヴエ』

『すんません』

「一人で騒ぎすぎたようだが仕方ねえじやん。

「これが今回の建造結果つてことでいい、んだよな?」

「私に聞かないでよ」

『ヴエ、ヴエ、ヴエ』

「とりあえず明石と妖精さんたちに頼んで調べてもらうか」

「そうするしかないわね。ていうかなんの音よこれ」

確かに何か音が聴こえる。

音のする方を見ると超弩級空母^{空飛ぶ母}(仮)からだ。

正体がわからないから余計不気味だ。

「これ爆発とかするかもしれないし沖の方に引っ張つて放置しない?
?」

「はあ!!もし強力な兵器で深海棲艦のものになつたらどうすんのよ」「それもそんなんだけさあ」

『お前ら、うるさい』

「え、しゃべった!!」

『トランス、フォーム』

その言葉が聞こえた次の瞬間、超弩級空母(仮)が変形し人型になる。

「な、なんなんだよお前え」

ビビりながらも対話を試みる。

『オレ、ショックウェーブ。デストロンの、剛腕提督』
(ショックウェーブ、それが名前か)

というか

『デストロンつてなんだ?』

「そして提督つてどう言うことよ」

『一気に、聞くな』

その後一応答えてくれた。

セイバートロン星という星で生まれ、メガトロン（なんか途中からガルバトロンとも言つてた）が率いる軍団、デストロンに所属しているらしい。

そしてその剛腕で敵を蹂躪して いたとも…。

「そんなヤバい奴が建造されるとかどうなつてんだよ」

「知らないわよ。それよりコイツをどうするのよ」

「そんなこと言われてもなあ。うーん」

他のところにコイツのことを報告するのは当たり前だが野放しには出来ないしどうしたものか…。

その時ある名案が降りてくる。

「そうだ、うちの鎮守府で働いてもらおう」

「はあ!?」

『ウエ?』

俺の言葉に2人とも驚いてるようだ。

「そうと決まれば善は急げ、とりあえず大淀に伝えてこよう」

「ちよ、待ちなさいよ」

そう言つて俺は叢雲の言葉を聞かずに走り出す。

そして叢雲はその後を追つてくる。

『オレ、どうする?』

そんな中ショックウェーブは1人残されていた。